

一般社団法人朝霞地区薬剤師会

## あさやくだより

第12号

(一社)朝霞地区薬剤師会

発行人: 広報委員長 細川 玄機

〒351-0021 朝霞市西弁財1-10-21-312号

TEL: 048-483-4125 FAX: 048-483-4126

asaka-ph@asakaph.or.jp

## 会長挨拶



年が明け、あっという間に3月になってしまいました。みなさま方におかれましては、相変わらずのコロナ禍のなか、地域の方々に必要な医薬品・衛生材料など滞ることなく供給いただいていること感謝申し上げます。

処方箋がFAXで送られ、電話で状況を確認し、必要な指導を行い、配送する、という「0410対応」にも慣れてきた薬局が多いと思います。最近では、この流れをオンライン診療に繋げたいという目論みも見え隠れし、悩ましい状況もありますが、町の薬局にとっては、顔を見ながらの信頼関係がなにより優先であることに間違いはありません。その上で、かかりつけ薬剤師制度を推進し、患者さんにお抱えの薬剤師を持っていただく、その先にオンラインがあるなら、薬局の仕事の広がりとして、それも一つの方法なのかも勝手に想像しています。

私たち薬剤師は、COVID-19に理屈で対応すべき職能です。世の中にあふれる何の分類もされていない情報を、必要なものと不要なもの、正しいものと間違っているものに振り分け、日常業務の中で対応する顧客や患者さまに、その時、その方に合った情報として提供する、とても大切な役割です。相手に届かないと意味がありませんから、相手に合わせたレベル感を持って説明しなければなりません。難しいことも多いですが、町の薬局の真骨頂でもあります。忙しそうな医師には

聞きにくくても、町の薬局の薬剤師さんなら聞ける、日常的にそんな場面に遭遇することは多いはず。なので、私たちは常に最新の情報を読みこみ、自分なりに考察し、まとめておくという作業からは逃げられません。

朝霞地区薬剤師会のホームページには、「新型コロナウイルス感染症情報」のページがあります。一般の方でも厚労省のホームページにすぐにアクセスできるようになっています。会員向けのページは、より役立つ情報が素早く得られるよう、多くのリンク先を探し更新するよう心がけています。そのまま印刷していただければ店頭でポスターとして貼れるようなツールを提供しているページなどもあり、是非活用していただきたいと思っています。

今後は、ワクチンの提供と普及が沈静化の大きなカギになりそうです。ワクチン接種は自己判断が基本であるからこそ、正しい情報を伝える必要があります。集団免疫の獲得まで期待するならば、普及活動はととても大切なので、薬局も情報発信基地の一つであって欲しいと思います。ワクチンについての情報もアップしていきますので是非お読みください。

また、行政がワクチンの接種体制を作るにあたって、薬剤師に協力要請が出ています。地元での災害支援という観点で、多くの薬剤師の協力が得られるよう、今後の話し合いを進めていきたいと思っています。

(会長 畑中典子・株式会社かくの木)

## 新型コロナウイルスワクチン接種支援について

2月上旬には、何もかも未定の段階での協力依頼のアンケート実施にもかかわらず、多くの皆様から協力可能との回答をいただき心より感謝申し上げます。2月中旬には行政から市民へのワクチン接種について協力依頼があり、医師会とも協力体制をとりながら、具体的な内容を協議しているところです。

薬剤師会としては、関係機関との窓口を一本化するため、「コロナワクチン対応臨時委員会」を立ち上げました。2月26日に第1回の委員会を開催し、今後は、薬剤師が担う業務（ワクチンの分配、薬液の希釈や分注など）についての研修会なども予定しております。

3月開始予定だった医療関係者のコロナワクチン接種については、ワクチンの供給が思うように進まず現在のところ接種の目処は立っていません。地域の医療関係者が出来るだけ早くワクチンを接種し、地域の方々へのワクチン接種の支援・協力に備えたいところです。

詳細が決定次第、あらためて協力の可否や日程の希望についてのアンケートを実施する予定です。

皆さまの協力をお願いいたします。

(常務理事 清水 勝子・新倉健康薬局)



## 入退院支援ルール作成会議

朝霞地区医師会地域包括ケア支援室が中心となり、在宅や医療機関の関連職種及び行政が参加した入退院支援ルール作成会議は、2月22日(月)の第4回代表者会議をもって今年度の協議をすべて終了しました。メール会議と代表者会議を組み合わせながら、活発な意見交換を行ってきましたが、この日は「朝霞地区入退院支援の手引き」の最終確認まで完了し、3月末には発行予定です。この手引きには、「関係者同士のエチケット、マナーについて」「利用者や家族向けの周知用チラシ」「入院時情報提供書について」「退院、退所時の情報提供について」が含まれ、地区内の医療機関、施設、ケアマネ、サービス提供者の共有事項として今後普及していく予定です。ケアマネが記入する入院時情報提供書には、かかりつけ薬局名だけでなく、かかりつけ薬剤師名も入れられるようにしましたので、おくり手帳に忘れず記載ください。当地区の良い連携ツールとなることを期待しています。

(会長 畑中典子・株式会社かくの木)

## 寄稿

## 学校薬剤師としての47年をふりかえって (名誉理事 小田 美良・オダ薬局)



昭和47年7月15日、私は24歳で新座市野火止6丁目に7坪のオダ薬局を開局しました。その年は、沖縄が5月15日に日本に返還された年でした。

当時、薬局を開設するには他局と200メートルという距離制限があり、私の選んだ場所は、志木駅から1.6kmも離れたところで、周りにはスーパーとそば屋さんがあるだけで住宅は少なく畑だらけの場所でした。

私たち夫婦は北里大学卒業後、佐々浪ファーマシーの銀座店と新宿ステーションビル店で2年間修業(見習い)をしました。ミルクと洗剤と殺虫剤が良く売れ、ベビーフードが卸から大量に納品されたときには、大変驚きましたが、手伝いに来てくれていた日野市や山口県の同期に「これは売れる。」と教えられました。

オープンから1年後、志木の駅前にあった牛山薬局の牛山和先生が店に訪ねてきてくださり、薬剤師の地位の向上のために頑張りましょうといろいろとご指導をいただきました。何度も訪ねてくださるうちに、昭和49年4月に新座市立東野小学校ができるので、この学校薬剤師になりなさいと勧められ、私を可愛がってくださる牛山先生のお言葉でしたので引き受け、一生懸命学校薬剤師の勉強をしました。その後、新座市立第二中学校の学校薬剤師も委嘱されました。初めて中学校に挨拶に行きましたら、「今日は注文はありません。」と言われ、学校薬剤師の職能について、校長と養護の先生に説明をさせていただきました。当時の報酬は1万円もありませんでしたが、公職だという誇りを胸に活動していました。

栄養士の勉強会に呼ばれた際、八王子の給食室で合成洗剤

の反対運動が起こっており、新座市でも給食室から合成洗剤をなくしたいので協力して欲しいとの要望を受け、その活動に没頭しました。調理員さんからの反対もありましたが、栄養士、調理員さんを集めて、勉強会を数回開き、理解、納得していただきました。新座市にも認めていただけたことには、心から感謝しております。

児童が安心して食べられる給食、川を汚さない石ケンとして栄養士会の要望でビデオも作成しました。洗った食器に残留する合成洗剤のテスト、そして実際に天然の石ケンで洗う安全性を訴える「人參ボウヤの給食室探検」というビデオを、市内の小中学校で、何度も流してアピールしていきました。

この3月末で新座市の学校薬剤師は辞任いたしますが、47年間大好きな児童達と触れ合うことができ本当に楽しい学校薬剤師生活でした。

最後に、長年ご指導、ご協力いただいた新座市学校薬剤師会の皆様にご心より感謝申し上げます。そして、朝霞地区学業担当代表者の松川厚子先生(富澤薬局)にも心より感謝しております。

[小田 美良 名誉理事・略歴]

朝霞地区薬剤師会会長(5期)

埼玉県薬剤師会理事、常務理事、監事(通算21年)

公益社団法人日本薬剤師会代議員

一般社団法人日本薬局協会会長

[表彰歴] 埼玉県知事表彰(平成22年)

厚生労働大臣表彰(平成24年)

旭日双光章受章(平成29年) 他



## コロナ流行状況下での実務実習①



かくの木薬局は、Ⅱ期に2名の学生を受け入れました。

実習期間中はスタッフと同様に、毎朝自宅での検温、体調の報告を実習生にもお願いしました。また、薬局内の感染対策について説明をした上で、実習への不安がないかを聞き取りながら実習を行いました。

期間中は待合室の密を避けるため、ポイントを抑えたコンパクトな投薬を実施していました。それを補うために行っていた投薬後の電話でのフォローアップを実習生にも行っていただきました。実習生が投薬を行った方の中から、薬が追加になった方に副作用が出ていないかを確認、薬による副作用ではないかと不安になっていた方へのフォローなどの事例がありました。また、地域の方の健康を守る薬局の役割を衛生材料の取り揃え、感染対策、正しい情報提供を通してリアルタイムで見えていただけたのは今年度ならではの体験学習となりました。

特殊な状況下での実習でしたが、地域の薬局の本質を伝えられる実習となったのではないかと感じています。(上妻 加奈・かくの木薬局)



## コロナ流行状況下での実務実習②



アカネ薬局2号店では、Ⅱ期に1名の学生を受け入れました。実習開始時期が、緊急事態宣言が解除されるかどうかのタイミングと重なったこともあり、実習開催が危ぶまれていた状況でしたが、1日遅れの5月26日から開始することができました。

薬局では緊急事態宣言中に、マスク着用、消毒の徹底、換気を頻回行うなどの感染予防対策を既に行っていました。したがって、学生を受け入れるにあたり新たな感染予防対策をする必要もなく、スムーズに実習を開始することができました。学生も自身の体調管理をしっかり行ってくれたので、最後まで体調を崩すことなく実習できました。

実習時期が感染の終息してきた時期と重なり、患者数も徐々に回復してきたため、実習に必要な症例確保に困ることもありませんでした。ただし長期処方が多くなり継続的に患者さんをみるという点に関しては、11週間では足りなかったと感じました。

感染危機の不安を感じながらの実習となりましたが、無事に実習を終えることができ安堵いたしました。

(小林 友之・アカネ薬局2号店)

## 施設在宅業務における新型コロナ感染症対策

当薬局では個人在宅の他に、グループホーム（GH）とサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）への訪問も行っております。新型コロナ感染症対策として、配薬用カバンにはスプレー式消毒用エタノール、場合によっては使用する可能性もあるため飛沫防止用にフェイスシールドや防護ゴーグル、手袋などが入っています。

GH・サ高住へ入室後、すぐに手洗い場をお借りして流水と液体せっけんによる手指衛生、うがいを実施してから配薬業務を行います。

配薬業務は現在、本人管理よりも施設職員管理の場合が多いので、主な業務は薬剤を保管しているカートへのセッティングと施設職員へのヒアリングや服薬指導となります。個人の居室へ訪問する場合は了承を得て、ドアを開けたまま、距離を一定にとりながら服薬指導を行っています。

GH・サ高住へウィルスを持ち込まないために、薬局内では1日2回の体温測定、調剤薬局内の換気、休憩時間の分散等、出来る限りの対策を徹底しています。

（福島 伸哉・あおい調剤薬局 朝霞根岸台店）



## コロナ禍での在宅業務

アカネサポート薬局は開局以来、積極的に在宅に取り組んできました。コロナウイルスの蔓延で、病院は面会に制限があるので家で過ごしたい、在宅に不安はあるが最後まで家にいたいと希望する患者さんや家族が増えたようで、この1年の訪問件数の増加は顕著です。

在宅患者さんは感染により重症化しやすい高齢者や疾患なので、コロナウイルスを持ち込まない、持ち出さないことを第一に考えます。訪問前に薬剤師と患者さんの健康状態を確認して、マスクと消毒液に加えて状況に応じて、ダチョウの抗体スプレー、使い捨て手袋、フェイスシールド、ガウンを携行します。訪問時間を短くし、面談時は患者さんと距離をとるようにし、できれば窓等を開けて換気をしてもらいます。患者さんの希望で居室に入らず、玄関に薬を置いていくことや、窓から手渡しすることもあります。

今後は感染が疑われる患者さんの居室を訪問することがあるかもしれません。感染防止を徹底して安全に在宅業務を継続していくことが使命と考えます。

（池田 由利・アカネサポート薬局）

携行資材です。上からガウン、使い捨て手袋、フェイスシールド、左がVブロックスプレー（ダチョウ抗体のスプレー）、右が消毒薬



## 令和2年度研修会総括と来年度に向けて



COVID-19の影響で、2020年度は研修会が思うように開催できませんでした。その中でも、7月に第1回「2020年調剤報酬改定Q&A」（集合研修）、10月に第2回「地域フォーミュラリーについて」（地域連携委員会担当）を初めてのZoom研修として開催しました。3月には、第3回（4日）「性・緊急避妊薬をめぐる最新の話題」、第4回（25日）「気管支喘息の新しい治療」、第5回（31日）「薬局薬剤師はどのように糖尿病患者さんにアプローチすればよいか」とWeb研修が続きます。

来年度はコロナワクチン接種が進み、新しい生活の中での研修会を開催できると思います。

現代医療の進歩、ITの進展を取り入れ、基本の8疾患と薬剤師を取り巻く状況を今後の課題とし、吸入指導マスターををはずすことなく、年間10回を目指し計画を立てまいります。会員の皆様のご参加お待ちしております。

（監事・研修委員 渡邊 美知子

あさか台わたなべ薬局）

## 新型コロナウイルス感染症情報



当会では、新型コロナウイルス感染症についての情報をホームページに掲載、随時更新しています。会員の皆様には、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防に努めていただきますようお願いいたします。



会員向け情報

一般向け情報



## 埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター

埼玉県病院薬剤師会では、毎月多くの研修会を開催しています。埼玉県薬剤師会会員の皆様は、会員価格で参加ができますので一度日程をチェックしてみてください。



埼玉県病院薬剤師会  
生涯研修センター



おすすめの本

不寛容論: アメリカが生んだ「共存」の哲学

森本あんり 著 (新潮選書/2020)



「寛容」とは何か？私がAさんの意見に対して「自分の意見とは違うが、Aさんもそれなりに正しいのだろう」と受け入れる態度はそもそも寛容 (tolerance) ではない、というのが出発点です。Aさんの意見に対して「その意見は間違えている、不愉快である」といった評価をしたとしても、それでもAさんが自らの良心に従って

それを正しいと信じているのであればAさんの意見・信条・行動を尊重し礼節を尽くす、ということが寛容の意味である、というのがこの本の主張です。中世のキリスト教哲学の簡単な紹介から始まって、植民地時代のアメリカにイギリスから渡ったロジャー・ウィリアムズという牧師の主張や行動を通じて、＜イギリス、アメリカ移民、先住民＞という異なる価値体系をもった集団の葛藤からこのような「寛容」という概念が確立していく歴史をわかりやすく丁寧に追っています。それは輝かしい成功の歴史というよりは苦々しい矛盾と挫折の歴史といったほうが近そうですが、世界的に白か黒かといった両極端な対立が目立っている今、知っておいてもいい考え方ではないかと思います。

(広報委員 田代 健康・地球堂薬局)

DNA再起動 人生を変える最高の食事法

シャロン・モアレム 著/中里京子 訳 (ダイヤモンド社/2020)



自分の遺伝子に合わせて食べることの重要性について書かれた本です。著者の考えは「遺伝子レベルで見れば全く同じ人はいないのに、健康問題を万人向けの手段で解決しようとするのは無意味ではないか」ということです。

食事などについて質問されることがある私たちにとっても、一般的

に良いとされるアドバイスが、ある人にとっては適していない場合があることを常に忘れないしておくことは非常に重要だと感じました。

自分はどのくらい炭水化物を摂って良いのか、どのくらいお酒を飲んで良いのかなどを簡単なテストで確認出来るのも興味深かったです。また、「うまみ」を活用することにより、美味しい料理で健康を増進させる方法について学ぶことが出来、巻末にはおすすめのレシピも載っています。

(広報委員 酒井 清貴・なぎさ薬局あさか店)

じほう社「調剤と情報」2021年02月号に清水勝子常務理事の報告が掲載されました。



「第53回日本薬剤師会学術大会ポスター紹介～薬剤師会、保険者、医師会および大学が協働して行った患者のための相談事業第2報～」  
ぜひご一読ください。



令和元年度事業報告書は  
当会HPでご覧ください。



松永

(名誉理事  
松永仁)

松永仁  
(松栄堂薬局)

一列に雪の踏みあとと通学路

夜学行く若者照らす街灯り

コスモスのなかに消えゆく鬼ごっこ



編集後記

コロナ禍で、我々薬剤師の間でもオンラインによる研修会が一気に普及してきました。Web環境が整えば、自宅や職場、外出先とどこでも研修会が受けられることはとても便利で助かります。ただ、2月を振り返ると、毎週日曜日がオンライン研修会、さらに平日にはメーカーの研修会がたくさん組まれていて、まさに頭がパンク状態でした。

会場に行かなくなった分体的にはとても楽になりましたが、研修会が集中し過ぎて頭の方にはかなり負担がかかっているような気がするのは私だけでしょうか。

研修会にはできるだけ参加したいけれど、ひと月の開催回数は今の半分くらいだといいのになあと思うこのごろです。

(広報委員長 細川 玄機・三原薬局)

皆様の投稿  
お待ちしております！



(一社) 朝霞地区薬剤師会  
TEL : 048-483-4125  
FAX : 048-483-4126

E-mail  
asaka-ph@asakaph.or.jp

